

令和6年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
- 2 コミュニケーション能力の向上…地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
- 3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち 半数程度達成 C=Bに達しない	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち 半数程度達成 C=Bに達しない		評価の 妥当性	改善方策 の適切さ
1	教務課	わかる授業の実現に向けて、授業規律の徹底を図る。	・「凡事徹底+」の教室掲示、教科担当者、年次教員による声掛けで生徒の意識高揚を図る。 ・査査前や検定前の補習を学年、教科と協力し実施する。 ・中学校の学び直しを実施することで、基礎学力の底上げを行う。	①生徒授業アンケートにおける「凡事徹底+」の項目について肯定的な意見が80%以上。 ②学校自己評価アンケート(教員)の「情報の共有と業務の効率化」の肯定的な意見が90%以上。(昨年96%) ③R6入学生の2年1回スタディサポートのGTZにおけるDゾーンの割合が普通科40%以下、生活ビジネス科70%以下(R5普39%生ビ77% R4 普43%生ビ74%)	①「凡事徹底+」は教室に掲示し、4月6月9月に徹底の呼びかけを行った。5月の授業アンケートについて肯定的な意見が95%あったため、この状態を維持していきたい。 ②学校自己評価アンケートは11月実施予定。 ③R6入学生の1年2回スタディサポートのGTZにおけるDゾーンの割合が普通科30%、生活ビジネス科58.7%であったのでこの状態を維持できるよう指導を続ける。	B	①11月の授業公開週間に凡事徹底のチェックしてもらった。11月の授業アンケートについて肯定的な意見が90%以上を維持できた。 ②学校自己評価アンケート(教員)における「情報の共有業務の効率化」ではほぼ100%が肯定的な意見であった。 ③R6入学生の1年11月進研模試のGTZにおけるDゾーンの割合が普通科17%(生活ビジネス科は進学希望者のみの受験)となっている。	B	①凡事徹底+というキャッチフレーズは年次集会などでも言っていたので広く定着した。今後も続けていきたい。 ②邑久高校ポータルサイトの作成、職員会議のペーパーレス化、アプリでの欠席連絡などの取り組みが教職員に効率化につながったと判断された結果と思われる。今後は情報セキュリティレベルなどのルール決めが課題である。 ③1年次を中心にきめ細かな指導を行い、順調にDゾーンが減少しBゾーンが増えてきている。	妥当	適切
	学力向上委員会	生徒の学習習慣の確立を目指し、授業や課題の工夫をする。新学習指導要領に対応した授業を研究し授業改善につなげる。	・2年2回(5月、11月)の生徒授業アンケートを実施し、生徒の行動変容を調べる。 ・2年2回(6月、11月)授業公開週間を実施し、互いに授業参観・意見交換を行い、職員会議で報告・共有を図る。	①2回目の授業アンケートで生徒の学習について改善が見られた授業が90%以上。(昨年度93%) ②年間の授業見学の報告数を50件以上。(昨年度31件) ③授業アンケートにおける授業外学習時間の項目の肯定的な意見が80%以上。(昨年度82%)	①5月に生徒授業アンケートを実施した。それぞれの担当教科でアンケートを実施し、11月までの目標を設定した。11月の結果からどのような変更があったかを確認する。 ②6月に授業公開週間を実施。おすすめ授業の一覧を掲載した「授業公開通信」を2回発行した。授業見学の報告は35件であった。 ③学校自己評価アンケートは11月実施予定。	B	①11月の授業アンケートの結果から授業改善が見られた教員の割合は90%(分析中を含めず)であった。 ②11月に授業公開週間を実施。凡事徹底や生徒に考えさせる時間の確保をポイントに授業を見学してもらい、6月と合わせて62件の報告があった。 ③学校自己評価アンケート(生徒)における「定期考査や検定に向けて勉強している」の肯定的な意見は82%であり昨年同様であった。	A	①次年度も生徒の意見も取り入れながら授業改善に取り組むたい。 ②年間の授業見学の数が目標値を大幅に上回った。授業公開通信で授業の見どころを紹介したところ、新しい取り組みにチャレンジする教員が多かったことが原因だと考える。今後はテーマなどをしぼって教科で話し合う機会を増やしたい。 ③検定前の補習や、考査前の学習実態調査などさまざまな取り組みをしている成果だと考える。	妥当	適切
	1年次	進路実現に向けた学習習慣の確立を目指す。	・1人1台端末を効果的に活用した授業づくりをすすめる、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を目指す。 ・授業デザインを工夫し、生徒が「わかる」授業の実践を推進する。 ・年間を通して、凡事徹底+、課題提出を徹底する。	①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(1年次)が90%以上。(昨年度95.5%) ②道徳意識アンケートの「自主自律」の肯定的回答(1年次)が90%以上で推移する。(昨年度98.7%) ③「理想の実現」の肯定的回答(1年次)が85%以上で推移する。(昨年度87.7%)	①学校自己評価アンケートは11月実施予定 ②「自主自律」は94.8%で、「ほとんどできている」の回答は、53.6%となっている。これからの行動に責任を持って行動できるように指導していきたい。 ③「理想の実現」は91.8%で、「ほとんどできている」の回答は43.3%となっている。これからの目標を持たせようとして指導していきたい。	B	①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(1年次)が100%(よくあてはまる:71.9%、ややあてはまる:28.1%)であり当初の目標値を上回った。 ②2回目の道徳教育アンケートで、「自主自律」は92.8%、「理想の実現」は82.9%で、年度当初の目標を「理想の実現」では下回った。両項目とも「ほとんどできている」の回答は39.6%と27.9%と減少した。	B	①教員研修や授業参観だけでなく、職員室でもICT機器の効果的な使用法について情報共有がされており、生徒が主体的・協働的に授業に臨むことのできる取組を実践した結果である。今後も新たな使い方を情報共有などをしながら、より「わかる」授業の実践を進めたい。 ②「理想の実現」では目標を達成することができなかった。これは、進路学習などを通して、自己分析ができ、成績だけではなく、自分自身の性格や特性を考慮した進路選択に多少の不安が現れているからだと思う。2年次では、さらに個に応じた進路指導ができるように担任だけではなく、進路、科、コースの特性を踏まえて、チームで対応していきたい。	妥当	適切
	2年次	学校内外の様々な活動を通して、進路実現に向けて、自ら学ぶ姿勢と自己管理能力を養う。	・1人1台端末を活用した授業改善とGoogleカレンダーによるスケジュール管理を支援する。 ・授業、資格取得などに向けて、生徒が主体的かつ目標をもって自発的に取り組めるように、生徒が「わかる授業」の実践を推進する。 ・年間を通して、教室・ロッカーを含めた学習環境の整備と管理能力を育成する。	①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(2年次)が95%以上。(昨年1年次95.5%) ②道徳意識アンケートの「自主自律」の肯定的回答(2年次)が95%以上で推移する。(昨年1年次98.7%) ③「理想の実現」の肯定的回答(2年次)が85%以上で推移する。(昨年1年次87.7%) ④学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている」の肯定的回答(2年次)が75%以上で推移する。(昨年1年次77.9%)	①③学校自己評価アンケートは11月実施予定 ②「自主自律」は90.2%、「理想の実現」は81.4%と昨年度より低くなった。進路達成プログラムやセトリ、大学訪問など様々な体験をする中で、自分自身と向き合う機会が増え、自分の適性についても考えるようになった結果と思われる。これからの進路選択に自信をもってもらえるように、担任・進路指導課とも連携を密に支援していきたい。	C	①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクターを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(2年次)が99%と目標値を上回った。 ②「自主自律」は90.2%から92.5%、「理想の実現」は81.4%から82.8%と6月アンケートから少し上昇したが、目標に達しなかった。 ③学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている」の肯定的回答(2年次)が76%と昨年度より下がったが、目標は達成できた。	B	①各教科の授業以外にも、セトリのまとめやグループ活動、各種アンケートなども含めてクロムブックを活用した授業が展開されているからと考えられる。教員が授業の効率化・授業内容の共有化だけでなく、「わかる授業」への取り組みとして実践しているからであり、今後も使い方の情報共有などをしながら活用していきたい。 ②両項目とも、「ほとんどできている」の回答が減少している。一つは、まだ成功体験が少なく、自信が持てないところ。一つは、インターンシップや進路学習などを通して、成績だけではなく、自分自身の性格や特性を考慮した進路選択、進路実現に向けて保護者と意見が合わないなど、多少の不安が現れているからだと思う。担任だけではなく進路指導課とも連携し、生徒が自信をもって目標とする進路に向かっていけるようにチームでサポートしていきたい。 ③昨年度より若干減少したが、11月より年次独自で毎月ごとの「学習環境強化目標」をHRR委員と考え、定期考査・模試・検定などに向けて落ち着いた環境で授業が受けられるように呼びかけを行った。	妥当	適切

令和6年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
- 2 コミュニケーション能力の向上…地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
- 3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち 半数程度達成 C=Bに達しない	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち 半数程度達成 C=Bに達しない		評価の妥当性	改善方策の適切さ
2	進路指導課	地域と連携したキャリア教育を推進する。	・総合的な探究の時間「セトリー」で、各コース・グループの特性に応じて、地域と連携した探究活動を実施する。 ・地域と連携した授業や進路行事を、年間計画の中で、効果的・継続的に実施する。 ・「セトリー」の活動を広く発信することで、地域の理解を図る。	①セトリー・アンケートの「地域への関心」及び「コミュニケーション」についての項目において、肯定的回答が増加する、もしくはそのうち「とても」の回答が増加する。 ②学校自己評価アンケートで、各行事は「進路を考えるのに役立っている」・「地域の人たちと話をしたり活動したりする機会を得ている」について、肯定的な回答が85%以上になる。 ③1月の実践報告会への来場者が40名以上になる。(昨年度33名)	①セトリー・アンケートは2年次生活ビジネス科で10月2日(水)実施予定。普通科は1月実施予定。②学校自己評価アンケート未実施。③実践報告会は1月23日(木)開催予定。 ・2年次生活ビジネス科情報ビジネスコースでは、観光講座や地域座談会、オリブ園や大町への取材ツアーをもとに、瀬戸内魅力新聞を制作。保育・食物コースは福祉や認知症について学んだ後、老人ホームせとうちへの訪問交流会で各班がレクリエーションを発表した。普通科は、文化・観光、社会・経済、医療・看護、自然・教育に分かれて、活動展開中。1年次普通科は瀬戸内市SDGsカードゲームの出前講座を9月18日(水)に3小学校へ実施。生活ビジネス科は地域企業人インタビューを瀬戸内人物図鑑としてまとめた。今後、実践報告会に向けて、研究の深化と発表の準備を行う。(外部講師による講演・指導25回、校外での活動・取材等10回、校内での体験会2回実施済み)	B	①セトリー・アンケートで、「地域への関心」についての肯定的回答は、2年次普通科では92.3%→91.5%(うち、「とても」41.0%→68.6%)、情報ビジネスコースでは92.3%→94.4%(うち、「とても」41.0%→52.8%)、保育・食物コースでは75.1%→88.9%(うち、「とても」31.3%→59.3%)といずれも増加した。「コミュニケーション能力」についての肯定的回答も、2年次普通科では92.1%→100%(うち、「とても」36.8%→74.3%)、情報ビジネスコースでは89.7%→97.2%(うち、「とても」35.9%→50.0%)、保育・食物コースでは83.8%→96.3%(うち、「とても」31.3%→63.0%)と大きく増加した。②学校自己評価アンケートで、各行事は「進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答(生徒)は93.1%・「地域の人たちと話をしたり活動したりする機会を得ている」の同回答は95.7%だった。 ③実践報告会へは地域や県内外の高校などから73名が来場し、過去最高の人数となった。「おかもさSDGsアワード2024」で「特に優良な取組」受賞、令和6年度文部科学大臣優秀教職員表彰と、校外からも高い評価を受けた。	A	各年次のプログラムが充実し、担当教員と地域の協力者の方の指導と支援によって、活発に行われている。3年間の系統的な取組の積み重ねが意識されるようになり、専門教科や進路にも結びつくことで、生徒・教員ともに本校の重要な活動であるという共通認識を持つようになった。地域と連携した探究活動の推進が、学校の活性化や魅力につながっていることで、生徒募集の改善にも寄与できていると考える。 生徒のコミュニケーション能力についても、生徒同士や地域の方との協働的な活動や交流、実践報告会での発表を通して、経験を積みながら向上させることができおり、アンケート結果にも反映されたとともに、3年次での進路実現にもつながっている。今後は、現在の取組を持続的に行うための組織づくりを行うとともに、大学進学に結びつくようにさらにプログラムの改善を図ってきたい。	妥当	適切
	広報室	一般入試志願者倍率1.05以上を達成する。	・ホームページのブログ、facebook、Instagramによるタイムリーな学校生活の様子の発信を継続的に行う。生徒の表情を見える化できるように、授業や部活動、ボランティア活動など本校の生徒がいきいきと活動する姿を発信する。 ・普通科、生活ビジネス科それぞれの特色を学校説明会(合計4回(校外2回、校内2回))、オープンスクール(2回(7月、10月))、邑久高通信(3回発信予定)などで分かりやすく伝える。 ・中学校へ訪問して、出前講座、学校説明などで魅力を伝える。	①HPブログ・インスタ・facebook年間230回以上更新。(平日週4回以上) ②邑久高通信を3回(学期に1回)以上発行。(昨年度3回) ③オープンスクール参加人数(中学3年生)が200名以上。(昨年度197名・2回) ④学校自己評価アンケート(生徒、保護者)の「邑久高校のホームページは充実している」の肯定的回答が生徒90%以上、保護者90%以上。(昨年度生徒93%、保護者94.3%) ⑤事前の希望調査で志願者倍率が定員の1.1倍を超えている。	①HPブログ・インスタ・facebookの更新は9月30日現在120回更新 ②邑久高通信は現在3号まで発行。3号目は、「広報せとうち」に折り込み瀬戸内市内に配布。 ③第1回オープンスクールの参加者は、264名(3年214名、2年50名、昨年度245名)。第2回オープンスクールの参加予定者は、155名(昨年度108名) ④学校自己評価アンケートは11月に実施予定。 ブログの更新、オープンスクールの参加者は昨年度を上回る人数で推移しているため、このまま志願者倍率に繋げていきたい。	B	①HPブログ・インスタ・facebookの更新は1月20日現在190回更新している。 ②邑久高通信は1月現在5号まで発行。6号目は「広報せとうち」に折り込み4月に瀬戸内市内に配布予定。 ③オープンスクールの参加者は中間時点で報告済みだが昨年度を上回る参加者数であった。 ④学校自己評価アンケート(生徒、保護者)の「邑久高校はホームページ、SNSを通して学校の様子を情報発信している。」(今年度から質問内容を変更)の肯定的回答は生徒98%、保護者96%と昨年度より大幅に増加した。 ⑤12月の一次希望調査で普通科1.38倍、生活ビジネス科1.15倍の志願倍率であった。	A	地道な広報活動の結果、本校の取組が中学生にも浸透してきており3年連続で志願者倍率を超える見込みとなった。オープンスクールの参加者数も昨年度より増加しており、本校に興味を持つ中学生が増加しているのを感じる。 また、学校自己評価アンケートでも生徒・保護者ともに「邑久高校に進学して良かった(させて良かった)」の項目が年々増加している。地域と連携した活動が生徒の満足度の増加となり、それが上手く広報できたことで志願者倍率の増加につながったと考える。 今後は中学校ごとの受験状況を分析して、来年度の広報戦略に繋げたい。	妥当	適切

令和6年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

- 1 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫
2 コミュニケーション能力の向上…地域連携教育等による協働的な体験学習の推進
3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方策	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち 半数程度達成 C=Bに達しない	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち 半数程度達成 C=Bに達しない		評価の 妥当性	改善方策 の適切さ
3	3年次	生徒が納得する進路を実現させ、地域、社会に貢献できる大人へ導く。	・年次団で個々の生徒の情報を共有するとともに、年次集会や面談などを通して学習意欲の喚起と進路意識の高揚を図る。 ・生徒が主体的かつ目標を持って継続的に学習に取り組めるように学習指導や幅広い資格取得支援を行う。 ・課題研究を含む探究活動などを通して、主体的に動かし、考える力やマナー、社会性などを育成する。 ・LHR、セトリ、課題研究を活用し、グループ活動などの充実や面接練習などを通して表現力や協働力を育成する。 ・アンケートや面談などを通して積極的な生徒理解と援助を図り、充実した学校生活、そして進路実現に向け、個々の生徒に応じた支援を行う。	①年次の最終アンケートで進路の満足度について肯定的回答が90パーセント以上。(昨年度は98パーセント) ②学校自己評価アンケート(生徒)の「進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答が90パーセント以上。(昨年度は97パーセント) ③進路希望が中間期までに25パーセント以上、12月末までに75パーセント以上、2月末段階で95パーセント以上達成できている。	①②は11月以降に実施予定。 ③については9月末で、進学26名、就職17名、計43名が内定している状況。(約43.9%) 進学については全員総合型選抜での合格者である。また就職については、17名内定、4名不合格、1名結果待ちという状況である。残りの進路が決定していない生徒に対しては個々に応じた支援を行う。 将来地域、社会に貢献できる大人になるように、卒業するまで、落ち着いた学校生活をきちんと送らせたい。	B	①年次独自で実施したアンケートの中の「進路選択の満足度について教えてください。」という質問に対して、91%が肯定的回答(「非常に満足している」、「満足している」)であった。5%が「未定のため判断できない」と回答している。 ②肯定的回答が96%であった。 ①、②の結果から、3年間の進路実現に向けた取組や、3年次になってからの指導や支援が生徒の進路実現に繋がっており、その結果、このような生徒の回答に繋がったと考えている。 ③12月末までの内定状況は、進学65名、就職24名(家業、縁故を含む)、計89名(約91%)で、9名未定であった。	A	①多くの生徒が肯定的な回答をしてくれている一方、「満足していない」と回答した生徒が数名おり、いずれも第1志望の進路選択ができなかった生徒であった。学力や自己アピールが不足し不合格になった生徒や、家庭の理解が得られなかった生徒もいた。生徒・保護者に対する丁寧な情報提供や、進路実現に向けた個々の生徒への支援が不可欠であることを再認識した。 ②3年間の取組などをアピールして進路実現を達成した生徒が多く見られた。今後もこの体制を深化させることが生徒の進路実現の強みになると感じている。 ③進路が未定の生徒に対して、個々の状況に応じた支援を継続していきたい。また、内定した生徒に対しても、「卒業後に地域、社会で貢献できる大人になれる」といふ年次団で声掛けをしていながら、最後まで落ち着いた学校生活を送らせることができた。	妥当	適切
	生徒課	社会人として必要な礼儀やマナーの向上を図る。 (規範意識の向上と定着) (礼節の順守)	・集会やHR活動を通じて、「規範意識」や「礼節の順守」について継続的に呼びかけ、意識改善や定着を図る。 ・授業や日常生活の中で緩んでいる生徒に対して、教員が継続的に声掛けを行い注意・改善を促す。 ・登校指導や昼食時の巡回などで「交通マナー」や「挨拶の励行」の啓発を行うとともに、規範意識やマナーの定着を図る。	①学校自己評価(生徒)の「邑久高校は、生徒に社会のルールやマナーといった社会で必要能力を養う機会を設けている」の項目で肯定的回答が90%以上。(昨年度91.3%) ②道徳教育アンケート(生徒)の「校則や交通ルールといった法や規則を守って行動している」の項目で「ほとんどできている」の回答が70%以上。(昨年度71%) ③道徳教育アンケート(生徒)の「校内や地域で、きちんと挨拶ができています」の項目で肯定的回答が90%以上。(昨年度91.4%) ※学校自己評価アンケートは年一回(11月)、道徳教育アンケートは年2回(5月・1月)実施予定	①は11月実施予定。 ②5月に実施した、道徳教育アンケート(生徒)の「校則や交通ルールといった法や規則を守って行動している」の項目で「ほとんどできている」の回答が73.5%。 ③5月に実施した、道徳教育アンケート(生徒)の「校内や地域で、きちんと挨拶ができています」の項目で肯定的回答が95.5%。 道徳アンケートについては、今回高い自己評価の数値が出ているが、更なる規範意識の向上と定着を図るべく、取り組みを継続していきたい。 ※2回目は1月実施予定	B	①学校自己評価(生徒)の「邑久高校は、生徒に社会のルールやマナーといった社会で必要能力を養う機会を設けている」の項目で肯定的回答が93.4%(昨年度91.3%)。 ②道徳教育アンケート(生徒)の「校則や交通ルールといった法や規則を守って行動している」の項目で「ほとんどできている」の回答が73.5%(5月)、71.8%(1月)。(昨年度71%) ③道徳教育アンケート(生徒)の「校内や地域で、きちんと挨拶ができています」の項目で肯定的回答が95.5%(5月)、95.8%(1月)。(昨年度91.4%)	A	学校自己評価、道徳教育アンケート共に今年度の達成基準はクリアしており、特にあいさつなど礼節の順守についてはほとんどの生徒が定着できるようになっている。 頭髪・服装の状態や、普段の学校生活の様子も落ち着いてきており、学校内における規範意識の高まりは感じている。 一方で、外部からの苦情も時々入ってきており、駅周辺や公共の場など、教員の目が届かないところでの振る舞いに多少の問題行動を確認している。今後も社会人として必要な礼儀やマナーの向上を図るべく、効果的な手立てを講じていきたい。	妥当	適切
	教育相談室	生徒一人一人の成長援助に視点を据えた活動を行う。	・各学期に1回実施している「生活アンケート」の項目を年次や各課と連携して見直し、各課と連携し、より効果的な内容にする。 ・「生活アンケート」実施後は担任、学年主任、係で情報共有し、SC・SSWと連携して生徒支援にあたる。 ・生徒支援のための教員研修を行う。	①実施時期に応じた「生活アンケート」になるよう項目を年次や各課と連携して見直しができている。(アンケート実施の2週間前までに) ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の項目の肯定的回答が95%以上。(昨年度は90%)	・「生活アンケート」は各学年ごとにタイムリーに実施し、学年団を中心に対応できている。今年度はSCやSSWと連携が必要なケースはない。 ・教員研修は「個別の支援計画の必要性」について講演を行った。今年度の1年生は個別の支援計画を中学校から引き継いだ生徒が20名程度いる。高校卒業後も必要になってくる可能性もあることから有益な講演だった。	B	①2学期は千町祭後に「生活アンケート」を実施し、人間関係のトラブルの把握を目的とした。問題を抱えた生徒には担任が面談し、問題解決につなげることができた。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の項目の肯定的回答は90%で昨年度とほぼ同じであった。	B	「生活アンケート」は学年ごとにタイムリーに実施し、学年団を中心に対応できている。次年度も有効に活用していきたい。 アンケート項目の生徒の肯定的回答は90%、保護者は80%、教職員は100%で生徒・保護者への教育相談の周知が必要である。 発達障害を抱える生徒が増加していることから、次年度の教員研修は「授業のユニバーサルデザイン」をテーマに計画している。	妥当	適切